

Shinsei IR Day

Shinsei IR Day の概要

工藤 英之 / 株式会社新生銀行 代表取締役社長

スライド 1 : Shinsei IR Day の概要 (表紙)

本日の四つのトピックスについて、もう少し大きな文脈においてご説明する。

新生銀行グループはメガバンクグループと比較してもスケールで勝負はできない。他社と比較した場合に我々なりのニッチをどう作るかが要となるが、そのための二つの重要な切り口を提示したいと思います。

スライド 2 : イノベーションを生み出すためのグループ融合

一つ目の切り口はグループ融合だが、これは単にグループ内のクロスセルを促進しようといった取り組みではありません。

当行グループにはいろいろなビジネスを展開するグループ会社があり、当行とほぼ 100%の資本関係にあるものの、各社それぞれの経緯や歴史もあります。

このため、イノベーションを生み出すためのグループ融合を進める際に、まず一度、大きく括り、混ぜて化学反応を起こさせることによっていろいろなものが生まれると期待しています。

例えて言えば、赤、青、黄をすべて均一に混ぜてグレーにすることが目的なのではなく、青と黄の境界では緑が生まれるといった、それぞれの特徴を活かした化学反応を期待しています。

この数年、金融機能のアンバンドリング（分解）、リバンドリング（再構成）は真剣に議論されていますが、我々はグループ内でこれに取り組むことで、最適化されていない部分や顧客のニーズに十分に応えられていない部分の対応力を高めていきたい。

スライド 3 : イノベーションを生み出すためのテクノロジー

もう一つの切り口としてテクノロジーの進化と活用があります。

異業種の参入やフィンテック企業の台頭により、既存の金融業態の在り方が揺らぐという状況は明らかに起きています。

技術の進化は誰でも享受できるので、それだけでは差別化要因にはなり得ません。それを使って、どう変えていくか、と言うことが重要になります。

スライド 4 : 本日のテーマ

本日は 4 人の登壇者を予定しており、スライドに記載の数字は登壇の順番を示しています。

一つ目の切り口であるイノベーションを生み出すグループ融合について、平沢チーフオフィサーが当行グループの機能の分解と再編という新しい試みについてご説明します。

また、グループ外の連携も模索し、いろいろな切り口からビジネス機会創出に取り組むたいと考えていますが、これは小座野チーフオフィサーからご説明します。進行中の案件についての具体的な話は難しいです

が、できるだけ事例をあげて、当行グループが目指す方向性を理解していただければと思います。

二つ目の切り口であるデジタル化技術への対応については、あらゆる金融機関でテーマになっていますが、特に個人顧客の業務はこのトピックスに非常に親和性が高い。本日は顧客に関係ある部分に焦点をあて、データ戦略については鳥越新生フィナンシャル社長から、インターフェースの作り込みの部分は清水常務からご説明します。